精華町文化財保存活用地域計画って？

京都・大阪・奈良という大都市に挟まれた精華町。
古来、国内外のさまざまな地域と交流を深め、
多様な文化の影響を受けながら、木津川や神奈備丘陵の
豊かな自然・風土を活かして、今日まで続いてきました。

精華町のこれまでの歩みで形作られた
様々な「もの」・「こと」・「ところ」・「こころ」は
人びとにとって親しまれる「**精華町の宝もの**」として、
精華町の多様な特性を育んできました。

→P.3～4をチェック！

精華町文化財保存活用地域計画は、過去から受け継がれてきた「精華町の宝もの」を
まちづくりなどに**活かし**ながら、地域総がかりで**将来へ継承**していくことを目指す計画です。

地域独自の多様な特色を強く表す **精華町の宝ものを守り・活かすこと**は、
精華町の特色を守り・活かすこと につながります。

→P.5～6をチェック！

稲植神社御田植祭
昔から農業が盛んだったと示す
豊作を祈る伝統的な神事

トキの球（光台）
新たな町への想いを込めた
まちびらき記念のモニュメント

精華町の宝ものを守り・活かすために、**地域総がかり**で取り組みます！
たとえばこのようなことを、10年の計画期間中に住民・団体・所有者・行政で連携して行っていきます。

→P.7～をチェック！

どんな宝ものが
この町にあるか
探してみよう！

精華町の宝ものと
親しめる機会を
作りたいな

保存と活用に
いろんな人を
巻き込みたい！

精華町の
宝ものを
地域で見守ろう！

みんなで
精華町の宝ものを
未来へ残そう！

令和8年（2026年） → 令和17年（2035年）

まちのこれまで

豊かな自然に囲まれ、
伝統的な田園の景観を持つ精華町は、
関西文化学術研究都市（学研都市）などの
開発が進むとともに、
文化財調査が進展しました。

精華町の誕生

昭和26年（1951） **川西村・山田荘村が合併し、精華村誕生**
昭和30年（1955） **町制を施行し、精華町に**

学研都市の誕生、町域の開発が進む

昭和60年（1985） **関西文化学術研究都市の建設開始**
平成3年（1991） **京奈和自動車道開通**
平成9年（1997） **JR東西線開通で大阪都心へ直通**

開発により、
文化財が
失われることを
危惧して……

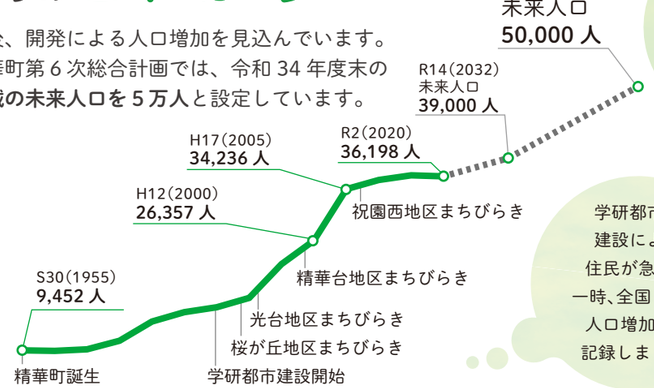
町域における文化財調査の進展

昭和58年（1983）～平成11年（1999） **町史編さん事業 その後も文化財の調査・整理を推進**

様々な分野の多数の文化財・資料を発見！

まちのこれから

今後、開発による人口増加を見込んでいます。
精華町第6次総合計画では、令和34年度末の
町域の未来人口を5万人と設定しています。



昔より人口は
増えましたが、
少子高齢化が進行し、
核家族や単身世帯が
増加しています。

学研都市の
建設により
住民が急増し
一時、全国1位の
人口増加率を
記録しました。

高齢化率（65歳以上の割合）
平成12年（2000） 13.3%
▼増加
令和2年（2020） 25.1%
（全国平均 28.7%）

1世帯当たりの人数
平成12年（2000） 3.17人
▼減少
令和2年（2020） 2.68人
（全国平均 2.21人）

精華町の宝ものが危ない!?

社会構造や価値観の変化、保存・活用の担い手不足等により、
滅失の危機にある精華町の宝ものも少なくありません。

- 活動団体の高齢化
- 文化財保護にかかるコストの増加
- 災害の激甚化・頻発化
- 感染症流行
- 伝統や文化に対する理解・興味の低下
- 若年層の転出超過
- 生活様式の変化により伝統的な風習が廃れる

精華町の宝ものってなに？

『精華町の宝もの』とは、
いわゆる「文化財」だけではなく、
住民が日頃から親しみや誇りをもち、
未来に大切に伝えていきたいと考える
精華町の文化・歴史・自然にまつわる
全ての「もの」・「こと」・「ところ」・「こころ」のことです。

大きく分けて
10 種類
あります！

- 精華町の宝もの
  - 有形文化財
    - 建造物
    - 美術工芸品
  - 無形文化財
  - 民俗文化財
    - 有形の民俗文化財
    - 無形の民俗文化財
  - 記念物
    - 遺跡
    - 名勝地
    - 動物・植物・地質鉱物
  - 文化的景観
  - 伝統的建造物群
  - 埋蔵文化財
  - 文化財の保存技術
  - 文化財環境保全地区
  - その他の宝もの

これまでの調査等で、
合計 3097 件見つかっています！

どんなものがある？

精華町の宝ものを、
種類別に少しずつご紹介します！

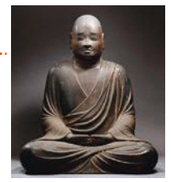
より確実に守るために

歴史上・芸術上・学術上特に重要なものは、
文化財保護法や条例に基づく**指定等文化財**として
保護を図っています。
その総数は、27 件！（令和 7 年(2025)3 月現在）

国指定重要文化財

建造物 2 件
彫刻 2 件

- 春日神社本殿
- 新殿神社十三重塔
- 常念寺木造菩薩形立像
- 若王寺木造智証大師坐像



京都府指定文化財

建造物 1 件
工芸品 1 件
無形の民俗文化財 2 件

- 新殿神社本殿
  ・末社八王子社
- 極楽寺梵鐘
- 祝園の居籠祭　等

京都府決定文化財

文化財環境保全地区 2 件

- 武内神社文化財環境保全地区　等

京都府登録文化財

建造物 1 件

- 武内神社本殿

京都府暫定登録文化財

建造物 4 件 / 彫刻 5 件※
古文書 2 件 / 有形の民俗文化財 1 件

- 鞍岡神社本殿
- 専光寺本堂
- 森島清右衛門家文書
- 精華町の紡織及び養蚕関連用具　等

精華町指定文化財

彫刻 5 件※ / 有形の民俗文化財 1 件

- 安楽寺木造阿弥陀如来坐像
- 春日神社繋馬図絵馬　等

※うち 2 件は町指定と京都府暫定登録の重複

有形文化財

建造物

神社建築、寺院建築、民家建築、石造物、
近現代の公共的な施設等

専光寺本堂（東畑）

国立国会図書館関西館（精華台）

美術工芸品

絵画、彫刻、工芸品、書籍・典籍、
古文書、考古資料、歴史資料

森垣外遺跡出土遺物（南稲八妻）
京都府埋蔵文化財調査研究センター提供

観音寺仏涅槃図（北稲八間）

民俗文化財

有形の民俗文化財

生業、暮らし、信仰に関わる民具等

大正式（山際式）
唐箕

精華町の紡織及び養蚕関連用具

無形の民俗文化財

年中行事、
祭り、食文化、
民俗技術等

春日神社弓始式（菱田宮川原）

四方参り（柘榴）

文化的景観

棚田・里山・
用水路等、
地域における
人びとの生活や
生業、
地域の風土により
形成された
景勝地

木津川平野部の田園風景

文化財環境保全地区

鎮守の杜等の、
文化財と
一体的に
保存していく
必要のある
周辺の環境
（※京都府独自類型）

武内神社（北稲八間）

遺跡

集落地、古墳、城跡、交通施設、用水施設等

椋ノ木遺跡（下狛）
京都府埋蔵文化財調査研究センター提供

畑ノ前遺跡（植田・精華台）

名勝地

公園、
庭園等

水景園（精華台）

記念物

動物・植物・地質鉱物

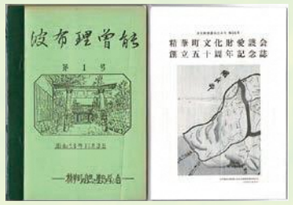
キンラン

その他の宝もの

いちごの栽培

バス停に残る南稲八妻の通称

せいか祭り



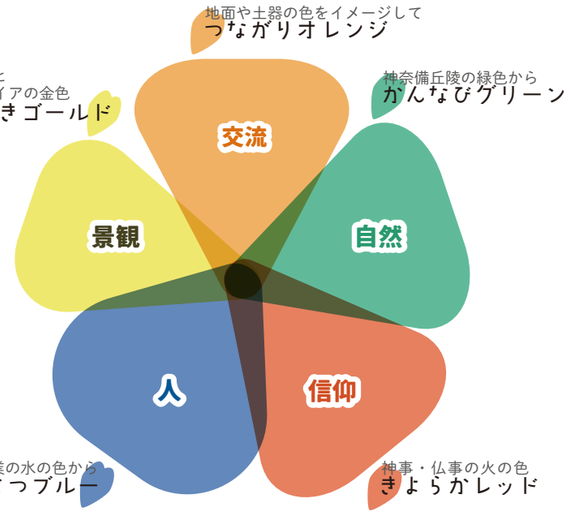
人びとの経験と記憶

山田川

上記の類型ではとらえることができないが、
精華町の歴史文化を構成する
伝説・伝承、ことば、産業、
イベント、地域活動、
人びとの経験と記憶、
地名、山岳・河川
（※精華町独自分類）

精華町の歴史文化って？

この計画では、
精華町の宝ものが
一体となって育んできた
精華町の特性の総体
（＝歴史文化）を
大きく分けて５つの特徴で
とらえました。
それぞれの特徴を、
テーマカラーとともに
ご紹介します。



信仰

まつりといのりの宿る地
―寺社と祭礼行事―

絆を育み伝統を伝える神社

町内の神社は、中世・近世に建築された本殿と、豊かな自然環境である鎮守の杜が、人びとによって大切に守り伝えられてきました。また、四季折々の特色ある行事を通じて、地域の絆を育むなど、信仰の場だけでなく、地域の文化・交流の拠点としても機能してきました。

地域の
人びとで
綱を引き合う
神事は、
大盛り上がり

いごもり祭り（祝園）

宝を受け継ぐ寺院

町内の寺院は、地域の宝を守り伝える「蔵」としての役割も果たしており、過去に廃寺となった寺院に伝来したものも含め、貴重な仏像・絵画・経典などを地域の宝として守り継いでいます。また寺子屋や村の会合、地蔵盆など、地域の交流の場としての役割も担ってきました。

別のお寺から
様々な危機を
乗り越え、
今のお寺に
伝わりました

極楽寺梵鐘（柘榴）

交流

「けいはんな」を結ぶ交流の地
―京都・大阪・奈良のあいだ―

京都・大阪・奈良 ３つの都市の中間地帯

精華町は奈良（平城京）と京都（平安京）のあいだに位置し、大阪にもほど近く、古来３つの都市と交流を続け、大きな影響を受けながら地域の歴史文化を育んできました。町内には奈良や京都の影響を受けた仏像や、街道などが多く残っています。

奈良の
仏像と
同じ特徴を
持ちます

想念寺木造薬師如来坐像（下狛）

国内外さまざまな地域との交流

古くから、精華町域の人びとは日本列島内外のさまざまな地域と活発な交流を図り、最新の技術や情報を取り入れてきました。古代の遺跡から出土した遺物・遺構や、近世に領主と代官がやり取りした書状、そして現代では学研都市の諸施設が、その歴史文化を語ります。

朝鮮半島の
影響が
見られる
構造です

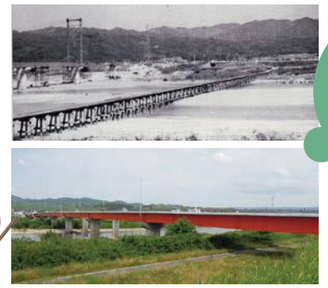
森垣外遺跡　大壁住居跡（南稲八妻）
京都府埋蔵文化財調査研究センター提供

自然

川と里山にいだかれる地
―木津川と神奈備丘陵―

木津川とともに歩むまち

木津川左岸に広がる沖積平野では、相楽郡の「穀倉地帯」と呼ばれるほど、早くから稲作が盛んに行われました。木津川は田畑を潤すだけでなく、交流・物流を支える役割も果たしました。人びとは、避けられない氾濫や水害とも向き合いながら、豊かな歴史文化を紡いできました。

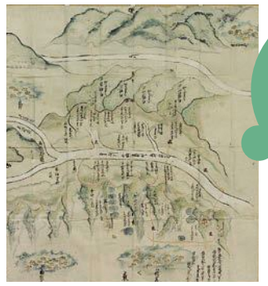


時代とともに
渡し船から
橋になり、
橋の材質も
変わりました

開の渡し跡・開橋（祝園）

隣り合う里山

精華町の西部や南部に広がるなだらかな丘陵地は、身近な里山として人びとの暮らしの基盤となりました。幕末からは白土の採掘が行われ、各地に出荷されました。昭和 50 年代以降の開発以降も、残された自然環境は人びとの憩いの場となっています。



里山の利用は
昔の人びとに
とって
重大な関心事
でした

藤田茂三郎家文書

人

人がつながり育てた地
―山城国一揆からの「自治」の歩み―

山城国一揆と中世惣村

京都と奈良の間に位置する町域は、中世、激しい戦乱の舞台となりました。室町時代には、応仁・文明の乱後も続く畠山政長と義就の戦乱に対し、地域の武士は山城国一揆を結成しました。
また、同じ時代には農民が経済的な成長を遂げ、惣村（そうそん）という自治組織を形成していきます。
戦乱の中で強まった人びとの結束は、現在にも続くつながりの礎となりました。

山城国一揆の
成立中に
作られた
石造りの塔です

新殿神社十三重塔

村の歩みを伝える古文書

近世から近代にかけて作成された多くの古文書は、精華町域の歴史を現代に詳しく伝えています。近世、領主に代わって支配の実務を担った在地代官や村の運営を主導した庄屋の古文書からは、当時の村の様子がうかがえます。寺社・自治会などに伝わった古文書には、地域の様々な人びとの多彩な歩みが記録されています。

江戸の領主と
交わした手紙や
村の記録が
数多く
残っています

森島清右衛門家文書

景観

歴史と未来がとけあう地
―学研都市と田園の景観―

学研都市と田園の景観

豊かな自然と田園の景観を持つ精華町では、高度経済成長期以降進められたニュータウンの建設でも、周囲の自然や環境との調和が目指されてきました。
歴史的な変化を織り交ぜ培われてきた、田園風景と学研都市という二つの景観は、精華町の特色と課題を同時に示す生きた景観といえるでしょう。

陶芸家
河井寛次郎が
絶賛した
集落です

釈迦の池と植田の集落

都市景観
100 選に
選ばれた
まちなみです

精華大通り（精華台・光台）

町名の由来と学校

精華町という町名の由来は明治 25 年（1892年）から大正 9 年（1920年）まで存在した精華高等小学校、および昭和 22 年（1947年）創立の精華中学校の校名です。まだ精華町という町が成立していなかった頃、これらの学校は村々が共同で運営を行っていました。時代に応じた「自治」と「教育」を大切にしてきたこれらの学校を運営する村々をもとに、今の精華町ができあがっています。

初代の校舎を
写した写真です
今と比べて
どうでしょうか？

精華中学校（南稲八妻）

だれが保存と活用を進めるの？

精華町の宝ものの保存と活用を効果的に進めるため、行政だけでなく、住民、各種団体、
精華町の宝ものの所有者の各主体がそれぞれの役割を果たしながら、連携して計画を進めます。

住民

主な役割
精華町の宝ものの存在に気づき、気にかけ、
大切にします。

団体

主な役割
楽しく充実した活動に取り組み、組織の継続に
努めます。

所有者

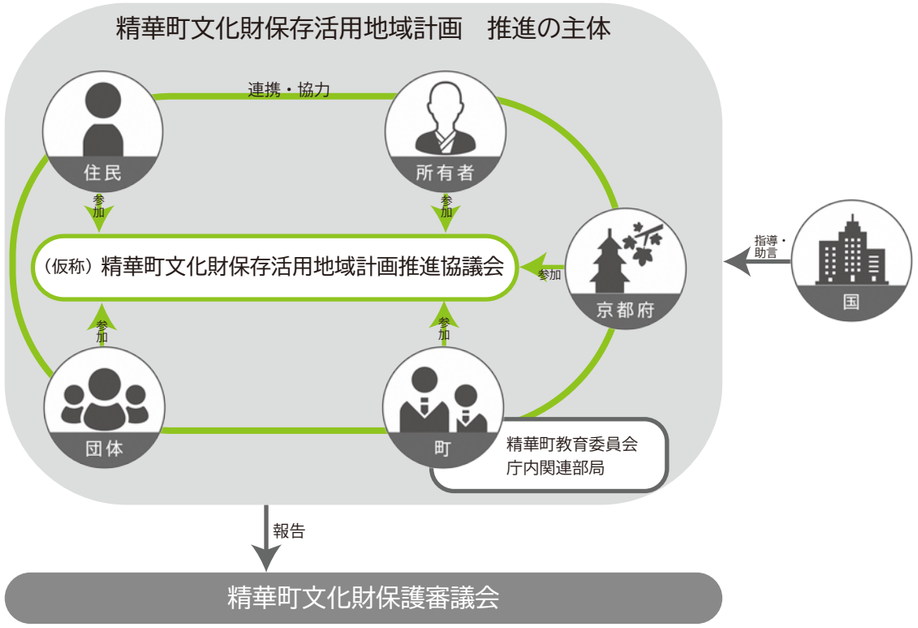
主な役割
所有・管理する精華町の宝ものを愛し、
未来へ継承できるように努めます。

行政

主な役割
様々な主体が連携して取組を進めることが
できるよう、調整を行います。

どうやって保存と活用を進めるの？

各主体が連携して計画を進めることができるよう、連絡調整のための協議会を設置します。
また、計画の進捗について精華町文化財保護審議会に報告します。



保存と活用のために何をするの？

計画を進める上での５つの方針を設定しています。これらに基づき、取組を実施していきます。

知る・調べる・広める　　テーマカラー　ふかぼりパープル

精華町内にどのような宝ものが存在するか、把握します。
把握した精華町の宝ものについて、その価値を明らかにします。
調査で把握した精華町の宝ものの価値を人びとに広く伝えます。

愛する・学ぶ・活かす　　テーマカラー　いとおしローズ

精華町の宝ものに接する機会を増やし、大切に感じてもらいます。
精華町の宝ものを人びとが学ぶ機会を増やします。
精華町の宝ものの活用を促進し、その魅力を発信します。

育てる・つなぐ・創る　　テーマカラー　めばえのリーフ

精華町の宝ものの保存と活用の前提となる専門知の基盤を確保します。
精華町の宝ものを支える地域の取組を支援する事業を進めます。
精華町の宝ものを通して地域の交流を創出し、地域を活性化させます。

備える・防ぐ・守る　　テーマカラー　やすらぎブラウン

精華町の宝ものを取り巻く災害・犯罪のリスクに対して備えます。
精華町の宝もののリスクに対する情報を共有します。
精華町の宝ものの発災時の被害を最小限に食い止めます。

遺す・直す・伝える　　テーマカラー　みらいのスカイ

精華町の宝ものの散逸・消滅を防ぎます。
精華町の宝ものを適切な周期で修理します。
保存環境を整え、精華町の宝ものを適切に将来へ伝えます。

30年後に実現する**将来像**と計画期間内で実現する　5つの**基本目標**

将来像　わたしがときめく宝もの　みんなで織りなす精華町

基本目標 1

精華町の宝ものについて、人びとがそれぞれの立場から理解を深め、その価値が広く共有されています。

方針 1-1　知る

まず町内にどのような精華町の宝ものが存在するかを知るため、地域において大切にされている精華町の宝ものの把握を進めます。

■取組の例

住民による精華町の宝ものの調査・記録

方針 1-2　調べる

精華町の宝ものの価値をより深く知るための詳細調査を推進します。

■取組の例

無形の民俗文化財の調査・記録
町内遺跡発掘調査と記録・整理

発掘調査の様子

方針 1-3　広める

精華町の宝ものの価値を人びとに広く伝えます。特に高い価値が認められた文化財は指定・登録に向けた取組を推進します。さらに、調査成果等のデジタル化を推進し、様々な場面で人びとがアクセスできるようにします。

■取組の例

郷土資料の収集・公開
文化財のデジタル化と公開

精華町立図書館

基本目標 2

精華町の宝ものが大切にされており、関心を持って知ろうとする人が増えるとともに、精華町の宝ものが持つ多様な価値が発信されています。

方針 2-1　愛する

精華町の宝ものそのものに接する機会を創出し、人びとと精華町の宝ものの距離を近づけるために積極的な取組を進めます。

■取組の例

文化財の公開促進
文化財の特別公開

文化財展示会

方針 2-2　学ぶ

社会教育や学校教育の中で、精華町の宝ものの多様な価値を人びとが学ぶ機会を増やします。

■取組の例

講演会・講座の開催

文化財講演会

方針 2-3　活かす

精華町の宝ものの魅力に磨きをかけ、まちづくりや観光、産業等での活用を促進します。

■取組の例

町内の周遊・観光に係る案内板の設置

文化財説明板

基本目標 3

精華町の宝ものを 核として人びとが集まり、地域の縁をつなぐとともに、新たな価値が生み出されています。

方針 3-1　育てる

行政職員の専門知識の充実と適切な人員配置に向けた検討を進めます。また、近隣の自治体や博物館等との交流により、職員のスキルアップや広域的なネットワークの形成を図ります。

■取組の例

近隣自治体等との連携強化

京都府ミュージアムフォーラム

方針 3-2　つなぐ

住民同士がつながり、個性を活かしながら精華町の宝ものの保存・活用を進めていくための基盤を整備します。

■取組の例

認定文化財制度の導入検討
文化財所有者間の交流と連携強化

精華町文化財所有者等連絡協議会

方針 3-3　創る

次代の担い手である若年層や子どもたちが、歴史文化や精華町の宝ものとふれあう機会を創出します。また、学研都市の企業や団体等と連携し、イベント等を実施し、精華町の宝ものを核として多様な人びとが集い、交流する機会を増やします。

■取組の例

精華町の宝ものを核としたイベントの促進

科学のまちの子どもたちプロジェクト

基本目標 4

精華町の宝ものを地域で守る意識が持たれ、有事の際に対処する体制が形成・維持されています。

方針 4-1　備える

増加する災害・犯罪のリスクに対して充分に備え、精華町の宝ものの被害を未然に防ぐため、日ごろから地域一体となって見守りを行います。また、防災・防犯設備の設置等を進めます。

■取組の例

無住寺院等の防災対策
防災設備の設置・改修

防災設備の例

方針 4-2　防ぐ

災害や犯罪が発生した際の初動対応について、行政・所有者・住民が連携して取り組めるような体制を検討します。

■取組の例

文化財台帳の更新・整備と情報共有体制の強化

方針 4-3　守る

防災訓練の実施や、対応を明確にしたマニュアルの作成等を通して、災害発生時に被害を最小限に食い止め、精華町の宝ものを守ります。

■取組の例

防災訓練の実施

防災訓練の様子

基本目標 5

精華町の宝ものについて、保存と修理が適切になされ、それを取り巻く環境ごと地域が守り伝えています。

方針 5-1　遺す

精華町の宝ものの散逸、消滅を防ぐため、民間所有の精華町の宝ものの現況を町により適切に把握します。町で所有するものは、適切な環境下で保存するとともに、従来の保管方法に加え、デジタル化等により万が一の滅失・き損等へも備えます。

■取組の例

民間所蔵資料の保存状況確認
町内写真の収集・整理

昔の精華町の写真

方針 5-2　直す

適切な周期で精華町の宝ものの保存修理を行います。また、所有者等へ必要な支援や助言を行います。

■取組の例

文化財の維持管理と保存修理

文化財修理の様子

方針 5-3　伝える

精華町の宝ものを適切に将来に伝えるため、損壊・損耗を最小限にとどめる保存環境を整えます。また、精華町の宝ものを構成する自然環境については、住民や団体と連携し、日ごろからの美化活動等により適切な環境を維持します。

■取組の例

文化財収蔵施設の設置

精華町の宝ものを未来に受けつぐための、
歴史文化を活かしたまちづくりの**基本理念**は次のとおりです。

過去(かこ)をほどき、現代(いま)をつなぎ、未来(さき)をつむぐ

過去から受け継いだ「精華町らしさ」であるまちの歴史文化を知り、
紐解いた過去を広め、現代に活かして人びとと地域がつながり、
現代の人びとが受け継いだものや生み出したものを守り伝え、
豊かな未来を作り出していきます。

近世以降盛んに
行われた
綿栽培や養蚕から、
糸をイメージして、
言葉を選びました

過去をほどき 現代をつなぎ 未来をつむぐ

精華町文化財保存活用地域計画　概要版

デジタルミュージアム「せいか舎」を覗いてみてください！

精華町の歴史や文化財を、インターネットを通じて広く紹介するため、デジタルミュージアム「せいか舎」を公開中です！精華町内の歴史・民俗を中心に、町内の指定等文化財や民具をはじめ、これまでに開催した文化財展示会の内容や、精華町史編さん事業で発行された出版物のデジタル版など、ふるさとの魅力をたくさん発信しています。ぜひ、覗いてみてください。

ふるさとデジタルアーカイブ せいか舎 Seikasya

精華町の宝ものにもっと親しめる！さまざまなイベント・スポットをご紹介します

精華町立図書館に足を運んでみよう！

門脇文庫

精華町立図書館では、地域の歴史・文化に関する図書や雑誌などの収集を進めています。閲覧室には郷土資料コーナーや、日本古代史研究の第一人者であった門脇禎二氏の蔵書が寄贈された「門脇文庫」のコーナーが設けられています。

精華町文化財愛護会主催のイベントに参加してみよう！

公開講演会の様子

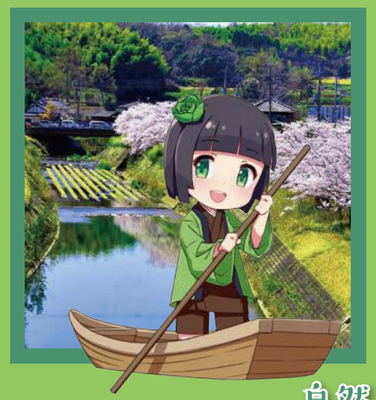
精華町文化財愛護会は、郷土の歴史や文化財の調査・研究、保存及び活用を行う団体です。地元の古文書を解読し、地域の歴史を学ぶ「古文書講習会」・「古文書入門講座」や町内の文化財をめぐる「文化財めぐり」、歴史や文化財に関して学ぶ「公開講演会」などを開催しています。

「ふるさと発見の旅」「せいか小さな旅」に参加してみよう！

せいか小さな旅の様子

特定非営利活動法人精華町ふるさと案内人の会が主催する「ふるさと発見の旅」・「せいか小さな旅」では、精華町やその周辺を、案内人とめぐることでふるさとの新たな魅力を発見することができます。

交流



自然

信仰

人

景観

精華町教育委員会

精華町文化財保存活用地域計画　概要版

発行：令和８年３月
精華町教育委員会生涯学習課　　TEL：0774 - 95 - 1907
〒619-0285 京都府相楽郡精華町大字南稲八妻小字北尻 70 番地

精華町文化財保存活用地域計画
本編はこちら▶